

神苑

神苑の決意

本号の内容

【主張】米朝首脳、板門店で三度目の対面実現 「外交の安倍」はどこにいったのか（木川智）：1 / 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る②9・タイ編⑤（仲村之菊）：3 / 花瑛塾六月活動報告：4 / 【記録沖縄戦】④軍民・日米それぞれの視点から（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：10 / 【談話室】トランプ「安保見直し」発言に踊らされるな：19 / お知らせ・編集後記：20

1部 1000円
(別途送料160円)

米朝首脳、板門店で三度目の対面実現

「外交の安倍」は何処にいったのか

神苑の決意 主筆 木川智

【主張】 六月二十八日および二十九日と開催されたG20大阪サミット出席後、米国トランプ大統領は韓国を訪れ、同国文在寅大統領と会談した。その後、トランプ大統領と文大統領は南北の非武装地帯を訪れ、国連軍部隊を視察した後、板門店で電撃的な米朝首脳の対面と会談をおこなった。米朝関係は本年二月のハノイでの米朝首脳会談以後、停滞気味となっていたが、このたびの板門店での首脳会談により、米朝交渉が進展し、朝鮮半島の非核化と東アジアの緊張緩和の新たな一步となることを期待する。

このたびの米朝首脳会談は、トランプ大統領のSNSでの呼びかけがきっかけともいわれているが、事前に米朝首脳間で親書のやり取りがなされ、また中国習近平主席もG20直前に北朝鮮を訪れているなど、ある程度の下準備はなされていたのではないと思われる。そうすると安倍首相は、直前まで開催されていたG20の議長であり、トランプ大統領とも会談しており、文大統領とも会談をおこなう機会はあるながら、このたびの米朝首脳会談の実現に関する関係各

国の取り組みから、完全に除外され、蚊帳の外にあつたといえる。G20大阪サミットは米中貿易摩擦や海洋プラスチックごみ問題など重要なテーマがありながら目立った成果はなく、実質的にはG20直後のこの米朝首脳会談が最大の外交上の話題となり、また成果ともなった。安倍首相の面目は完全に丸つぶれとなった。G20大阪サミットでは、なぜか文大統領の存在感がないような報道が一部でなされたが、本当に存在感がないのは誰なのか、私たちはよく考える必要